学校番号	１１２

令和３年度　国語科

教科	国語科	科目	国語総合（現代文）	単位数	５単位（２）	年次	１年次
使用教科書	改訂版　国語総合　現代文編　（数研出版）						
副教材	改訂版　読み・解き・覚える「日本文学史必携」（第一学習社） 常用漢字の１・２トライ（浜島書店） 巻頭増補版　常用国語便覧（浜島書店） 高校国語入門（第一学習社）						

１ 担当者からのメッセージ

・１年間で、基礎的な国語の教養、論理的な読解力と表現力を身に付けましょう。
・文章記述、話し合い、発表などは主体的に取り組みましょう。
・文章を正確に理解し、他者に自分の考えを伝えるために豊富な語彙力を身に付けましょう。
・予習と復習により、国語力の定着を図りましょう。
・集中して勉強することで、定期考査で基本的学力を定着させる機会にしましょう。

２ 学習の到達目標

・目的や場にふさわしい語句を選び、適切に思いや考えを表現することができる。
・的確に文章の内容や構成、登場人物の心情を理解することができる。
・結論に至る文章構成・流れを把握し、著者の主張を正しく読み取ることができる。
・言語感覚を磨き、論理的な思考力、豊かな想像力を場面に応じて活用することができる。
・異文化や異なる言語文化への関心を深め、自文化や国語と比較しながら論理的に思考する態度を育んでいる。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
評価の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手の目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。
評価の方法	行動の観察 記述の点検 （ノート等）	行動の観察 （発表等）	記述の確認及び分析 （課題・ノート等） 定期考査	記述の確認及び分析 （ノート等） 定期考査	記述の確認 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４ 学習の活動

・表中の観点
　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力　d:読む能力　e:知識・理解
・評価の観点のうちその単元で主として扱う国語の領域（ｂ・ｃ・ｄ）に関わる観点には◎を付している。
・文学史　「日本文学史必携」
・漢字　「常用漢字の１・２トライ」
・著者理解、語彙等　「常用国語便覧」

学期	項目	学習内容	文学史	漢字	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d	e		
一学期	随想(一)	「知の体力」	p69 ～73、 p77	p60 ～65	○			◎	○	a 筆者が主張する「知の体力」をつけるための勉強にはどのようなものがあるか考えようとする d 具体例から問題提起に至る文章構成を捉えている e 小テストの範囲から定期考査に反映させて到達度をみる。	a 態度 d定期考査 e 小テスト
	評論(一)	「水の東西」			○			◎	○	a 文化の違いを理解する。 d 二項対立型の評論の読解方法を習得する。 e 小テストの範囲から定期考査に反映させて到達度をみる。	a 態度 d定期考査 e 小テスト
	小説(一)	「羅生門」	p69、 p74～ p76 p78	p66 ～73	○	◎		○	○	a 登場人物の性格や心理を的確に読み取る。 b 小説の面白さを話し合う。 d 小説の読解方法を習得する。 e 小テストの範囲から定期考査に反映させて到達度をみる。	a 態度 b観察 d定期考査 e小テスト
	評論(二)	「ものとことば」			○			◎	○	a「もの」と「ことば」の関係を読み取り「ことば」の特質について理解しようとする。 d 現状分析の内容を捉え、具体例と抽象的見解を対応させて読むことができる。 e 言葉の虚構性と人間世界との関わりについて正しく理解している。	a 態度 d定期考査 e 定期考査
夏休み	課題	語彙力・読書		p12 6～1 32 p15 6～ 175				○	◎	d まとまった本を読み、内容を理解し、課題を完成する。 e 基本的な語彙力を習得する。	e課題提出 d課題提出
二学期	詩歌(一)	俳句 (一学期期末考査後～)	p69 p79、 p80、 p84	p74 ～81	○	○	◎	○	○	a 鑑賞の仕方を習得する。 b グループで話し合う。 c 俳句を創作する。 d 想像力や感受性を養う。 e 韻文規則の知識を押さえる。	a 態度 b観察 c創作 d定期考査 e小テスト
	小説(二)	「旅する本」			○			◎	○	a 読書による成長について、自分の経験もふまえて本文を読み、登場人物の行動や内面の変化を、象徴表現を明らかにして捉える d 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。 e 擬人法を理解している。	a 態度 d定期考査 e 定期考査
	評論(三)	「『わらしべ長者』の経済学」			○			◎	○	a 筆者が述べる「わらしべ長者」の一般的な解釈と、経済学的解釈について理解しようとしている。 d 段落冒頭の接続語・指示語に注意して読むことができる。 e 読むことに必要な文章の組み立てを理解する。	a 態度 d定期考査 e 定期考査
	小説(三)	「城の崎にて」	p69 p81～ p83 p84	p82 ～ 87	○			◎	○	a文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 d文章を読み「私」が至った認識をもとに「生命」について自分の考えを深めている。 e 作者の体験が言語化され文学作品となることで。作者の感情が昇華され普遍的な意味を持つようになることを理解している。	a 態度 d定期考査 e 定期考査

	評論(四)	「無痛化する社会のゆくえ」			○		◎	○	○	a「無痛化」というキーワードを用いて展開される論を読み取り、筆者の意図する内容を理解しようとする。 c 本文の具体例となるような話を自分でも探し、まとめる。 d 敬体を用いた文末表現の効果を、常体と比較しながら読み深めている。	a 態度 cワークプリント d定期考査 e 定期考査
冬休み	課題	読書						○		d まとまった本を読み、内容を理解し、課題を完成する。	d課題提出
三学期	随想(二)	「匂いは、いつも言葉の奥の何かを」 (二学期 期末考査後～)	p102、 103＋ 裏表紙裏 の冒頭文	p90 ～ 95	○			◎	○	a 文章に描かれた、筆者の抱いた感覚がどのようなものかを、表現に即して読み味わう。 d 筆者の独自性のある表現から、描かれた情景や筆者の心情・感覚を理解しようとしている。 e 本文に表現された語句の意味には広がりがあることを理解している。	a 態度 d定期考査 e 定期考査
	評論(五)	「他者を理解するということ」			○	◎		○	○	a 筆者が主張する「他者の理解」が「感情の共振」とどのように異なるのか理解しようとする。 b「他者を理解する」とはどういうことか、それぞれ具体例を考えグループで話し合う。 d 指示語を含む文章の内容を文脈に即して的確に読み取り、具体例と筆者の抽象的見解を的確にとらえている。 e 語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにしている。	a 態度 b観察 d定期考査 e 定期考査
春休み	課題		直前に冊子配布					○	◎	d まとまった文を読み、内容を理解し、課題を完成する。 e 長文読解、語彙、表現の実践を行う。	d 課題提出 e 課題提出